

尾道教育総合推進計画(案)に対する意見募集の実施結果について

募集期間 令和4年1月28日～令和4年2月28日

募集結果 応募者数6人、意見件数31件

提出方法 持参2件、電子メール2件、FAX1件、郵送1件

いただいたご意見(概要)と教育委員会の考え方

No.	区分	ご意見の概要	教育委員会の考え方	計画(案)関連頁
1	全般	基本理念中、「尾道に愛着と誇りを持ち…」とあるが、学びの主体である子どもたち・若者たちにとって、「故郷(ふるさと)に愛着と誇りを持ち…」と表記する方が、合併を重ね、市域が広がった今日では、より身近で実感の湧いてくる表現となると思う。	本計画の上位計画である尾道市総合計画では、将来像を「元気あふれ人がつながり 安心して暮らせる ～誇れるまち『尾道』～」としています。これを踏まえ、本計画の基本理念においても「尾道」という言葉を使用し、「チーム尾道」として、市民がより一層尾道への愛着と誇りをもって、市民全体でより良いまちづくりをしようとする気持ちを共有する上でもその一助となるものと考えております。	1
2		基本理念・施策の方向性は共感できる。	基本理念・施策の方向性については、社会経済情勢の変化を受けながらも、本市の教育行政に関する方向性を示しています。今後も、時代の変化に対応しながらも、継続的な教育行政の柱として基本理念・施策の方向性を大事にしながら取り組みます。	1
3		新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響は市民の生活様式を大きく変化させ、社会全体で「新たな日常」への対応が求められる(P.2)ことになったが、教育施策でもDX社会への対応ばかりが強調されているように感じ、これまでのアナログは淘汰され、ついていけない高齢者は生きづらさを感じ、人生の幕を閉じていくように思う。「子どもは社会の宝」であるが、どのような未来が形づくられるのか、AIを使ったロボット社会になり、子どもは生き生きと生活していけるのかと不安を感じた。	新型コロナウイルス感染症の拡大や、ICTをはじめとする様々な分野での技術革新など、将来予測の困難な時代となってきています。そういった時代にあっても尾道の子どもたちが「夢と志を抱き、グローバル社会を生き抜く」ために「学びに向かう力、人間性」等、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力」等の3つの力をバランスよく育むことが大切であると考えており、これまで積み重ねてきた教育実践とICTとを最適にくみ合わせることで、子どもたちが生き生きと学べるように取り組みます。	2
4		分かりやすくするためにP.5の「年少人口比率」を「年少人口比率(0～14歳)」、「高齢人口比率」を「高齢人口比率(65歳以上)」にしてはどうか。	いただいたご意見を参考に修正します。	5
5		P.11「政策の柱4集い・学び・生かす生涯学習の推進」に、郷土を守る子どもの育成を入れる→学校教育にも入れる。(郷土を守るとは、地域社会を守る、家庭を守る、個人を守り国を守る。)	児童生徒がふるさと「尾道」の特色ある伝統や文化を学び、その良さを発見する学習活動や、職業や自己の将来に関する学習活動を通して、ふるさとに誇りを持ち、夢と志を持って自己の生き方を考える部分に、記入いただいた「郷土を守る子どもの育成」の趣旨(地域の良さを知り、誇りに思い守っていくという意味)を込めさせていただいています。	11

6	政策の柱1 学校教育「夢と志を抱きグローバル社会を生き抜く子どもの育成」	施策目標1 確かな学力の育成	P.17施策1(2)の1項目目の「小学校以降の教育の基盤となる力」については、より具体的な力が示せると現場の先生方はやりやすいと思う。	幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の具体例として、「思考力の芽生え」「協働性」を記載しております。今後、研修等においてさらに具体的に示してまいります。	17
7		子どもの育成の部分で、ICT等の活用を上げているが、ICT化で子どもの健康と学力に与える弊害についての対応が書かれていない。メリットばかりでなくデメリットもあるはずで、考えていかなければならないと思う。 昨年、子ども一人一人にタブレットを渡して、学校や家庭でも使えるようにしたが、大丈夫であろうか。インターネット・スマホを使う子どもをめぐる弊害は「インターネット・スマホ依存症の問題」「有害サイトの問題」「いじめなど問題」などがあげられ、さまざまな予防策が求められている。その必要性はタブレットパソコンでも同じである。 また、子どもの心身の成長や健康に関する影響はどうだろうか。ICT眼症といって目の疲れから肩こりや腰痛など様々な全身症状を引き起こしている。いつ、どこで、どのように使うかの見極めがないまま導入されている。デジタル教科書の導入は、教科書会社やパソコンメーカーの利潤を追求することになっていないか。教室の机やイス、照明などの環境も検討する必要があると思う。子どもへのしっかりした安全対策がないままのICT化は危険であるため、十分な対策や指導を示して欲しい。	「GIGAスクール構想により、児童生徒1人1台端末環境と高速大容量の通信ネットワーク環境が実現されたことを最大限活用し、これまでの教育実践とICTとを最適に組み合わせ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に努めます。」と記載をさせていただいておりますが、同時に「施策目標2 豊かな心の育成」「(4)いじめ等の対応の徹底」の部分では、「ICT等の不適切な使用に対応するため、保護者の協力も得ながら、教育委員会作成の「タブレット使用のルール」を徹底するとともに、情報モラル教材を活用し、情報モラル教育を推進します。」と記載させていただいております。また、「施策目標3 健やかな体の育成」「(2)基本的な生活習慣の確立」の部分では、「タブレット使用のルール」や情報モラル教材を活用し、保護者の協力も得ながら、ICTの適切な活用と健康管理に対する指導を通して、子どもの基本的な生活習慣を確立していきます。」との記載をしております。こういった取組を通して、メリットばかりでなくデメリットも含めて児童生徒の情報活用能力(情報モラルを含む。)を高めていきます。	17,21,25	
8		P.18の3～4行目の「積極的な活用」については現場で取り組む中で具体的な実践ができればいいと思う。	いただいたご意見につきましては、今後の取組の参考にさせていただきます。	18	
9		施策3(2)「伝統や文化等に関する教育の推進」に、郷土を守る子どもの育成を入れる(郷土を守るとは、地域社会を守る、家庭を守る、個人を守り国を守る)。農業を守る、漁業を守る、人とのつながりを守る。	児童生徒がふるさと「尾道」の特色ある伝統や文化を学び、その良さを発見する学習活動や、職業や自己の将来に関する学習活動を通して、ふるさとに誇りを持ち、夢と志を持って自己の生き方を考える部分に、記入いただいた「郷土を守る子どもの育成」の趣旨(地域の良さを知り、誇りに思い守っていくという意味)を込めさせていただいております。	19	
10		P.19にある「スクールプライド(学校への愛着や誇り)」の醸成については、先生方の腕の見せ所。学校組織で、あるいは個々の先生方で「学校評価」に入れるなどして進めると良く、やりがいにもつながる。地域の一員としては全面的に協力していく。	いただいたご意見につきましては、今後の取組の参考にさせていただきます。	19	
11		施策目標2 豊かな心の育成	P.23の(1)の2つ目の項目にある「通学路」については、まず目に見える所から、例えば、横断歩道や、車道と歩道との境のラインなどが消えかかっている箇所が数多くある。学校の先生方が把握するのが筋ではあるが、PTAや各地区役員などの協力を得ながら実態把握と早急な整備ができるといいと思う。地域住民や子どもたちへの意識付けにもなる。	いただいたご意見につきましては、今後の取組の参考にさせていただきます。	23

12		P.23の(2)の3つ目の項目にある「マニュアル」については、的確で複雑にならないようすること、「絵にかいた餅」にならないようにすることが大事だと思う。	いただいたご意見につきましては、今後の取組の参考にさせていただきます。	23
13	施策目標3 健やかな体の育	施策1については、就学前から取り組む必要があると思う。「遊びながら自然に体力がつく」、「遊びながら体を動かすことが楽しくなる」ことが、小学校以降の生活に役立つと思う。費用対効果もあるので、希望する地域の公的な場所に「遊具」を設置することも考えられると良い。「希望」といっても安易に考えず、その地域のニーズや思いが伝わってくるような地域から進めていく必要があると思う。このことは、ついでに「できることが多くなる(自己肯定感)」、「遊びながらふれあいやコミュニケーション力、規範意識が育つ」といった「道徳性、人間性、学びあう力」の育成(豊かな心の育成)や、「家庭内(親子や三世代)・保護者同士・地域内での良好な関係・地域コミュニティの再生」等の付加価値も生まれると思う。	いただいたご意見につきましては、今後の取組の参考にさせていただきます。	24
14	施策目標4 信頼される学校づくり	施策3(1)(2)については、教職員が「よしやってやろう」、「やりがいがある」、「この学校に勤務してよかった」と思えるようになることが一番だと思う。やるべきことはたくさんあるが、「やるべきこと」と「やりたいこと」が一致すると「教職員の力が最大限に発揮できる」と思う。そのためにも、先生方一人一人が、「理念や目標、個々の政策・施策を含めた全体像が見え、イメージでき、自分はどこをどうするかということが明確になる」ことが必要だと思う。そういった意味で「学校評価・自己評価」が先生方にすんと落ちて「自分が精一杯やっていることは、このこの目標につながるんだ」という思いをどれだけ持たせられるかが重要だと思う。当然、それが狙いで導入された制度だとは思いますが、「言うは易し、行うは難し」である。	学校評価制度や人事評価制度の運用にあたっては、本市では、組織目標と教職員の一人一人の目標や、目標達成のための組織の取組と教職員一人一人の取組との整合を図ることにより、教職員の学校経営参画意識を高めるとともに、組織的・継続的な学校改善や人材育成につなげてまいりました。今後も、学校評価や人事評価を適切に実施することにより、教職員の意欲の向上を図るとともに、学校が活力ある組織としての総合力を発揮することを目指します。	27
15		先生方の心と体の健康の面や法令上、長時間の時間外勤務はいけないと思うが、先生方がやりたいこと(カリキュラム検討、教材研究、授業研究、授業準備(理科なら予備実験・実験の準備・実験の片づけ等も含む)、プリント等資料準備、採点、分析、評価、学級経営、課外活動、生徒指導、補充学習、子どもに関わりきる、部活動等)ができる状況になると、それが「やりがい」につながり、しいては「勤務してよかった」と思える状況になると思う。休みの日でも上記のこと(やりたいこと)をいろいろ考えたり実際にやったりしている。	「学校における働き方改革」は、教職員の長時間勤務の縮減の他、一人一人が健康で生き生きとやりがいをもって勤務できる環境づくりの実現や、授業準備、教材研究、週案・指導略案作成など児童生徒の関りのある時間を含めた、教員の子どもと向き合う時間を確保することで、教育の質の向上を図ることを目的として行っています。今後も「学校における働き方改革」を着実に推進し、教職員が「尾道の学校に勤務してよかった」と思える職場環境づくりを目指してまいります。	27

16		<p>教職員の働き方改革では、教職員の負担を減らしていかなければ、「尾道の学校に勤務してよかった」と思えない。このままの人数配置では健康破壊は増えるばかり。慢性的な超過勤務、人事評価制度による締め付けでは、人材は集まらない。市独自で30人学級を実現して採用を増やしていくべき。校内にいろいろな専門職を増やしているようであるが、子どもに接するクラス担任などの教職員を増やし、授業を通して子どもと触れ合えるようにすることが効果的ではないだろうか。専門性は時には職員同士に溝を作ることもある。同じ目線で子どもに向き合え、子どもを中心において、学年会で話し合うという共同作業が大切である。一学年一クラスでは担任は成長できない。仕事が終わっていないのに退勤時間が来ると追い出されるような学校状況を聞くことがある。教職員の悩みも出し合う時間と場所が必要であり、広く人材を集めるために、働く条件づくりを考えて欲しい。</p>	<p>教職員の配置は、県の定数配当基準に基づいて行われており、本市独自の少人数学級については、費用面や人材確保の面から、難しい状況です。本市では、教員が限られた時間の中で児童生徒の指導に専念できる体制を整えるため、学習支援講師、授業アシスタント、特別支援教育支援員、スクールソーシャルワーカー、スクールサポーター、教務事務支援員、部活動指導員、非常勤講師等の配置を今後も積極的に行い、専門性を持った多様な人材が互いに力を発揮し合う「チームとしての学校」の実現を図ってまいります。</p>	27
17	<p>施策目標5 安全・安心で良好な学校施設の整</p>	<p>学校施設の整備について、当然新しい古いの違いはあり、仕方なく、すぐにはできないと思う。しかし、色々な学校を見ているが、トイレの格差はとても大きいと思う。快適に使用できるトイレの整備をお願いしたい。</p>	<p>小中学校のトイレ洋式化を進めてきており、現在、洋式化率は50%に達しています。トイレの改修については大規模改修と併せて、洋式化・乾式化を含めた衛生面・機能面等の改善を行っていく予定です。</p>	
18		<p>幼稚園、学校校庭の芝生化。 以前住んでいた杉並区では小・中学校の校庭の芝生化が進んでおり、芝生の上では子どもたちは外で遊ぶのが楽しくなると思う。芝生に変えるだけで、寝転がっても楽しく、スポーツも思いっきりできると思う。杉並区のある幼稚園では20年ほど前より芝生の園庭があり、子どもたちが楽しそうにサッカーをやっており、そこからはJリーガーが何人も育ってきた。きっと芝生の上で行うことでサッカーの楽しさを知ったのではないか</p>	<p>校庭の芝生化の効果は認識しているところです。以前に市内の小中学校で試験的に実施した例がありますが、導入費用および維持管理の負担が大きく、全市的な取組には至りませんでした。引き続き各園・学校、保護者などの意見・要望を踏まえながら検討します。</p>	28
19	<p>政策の柱2 生涯</p>	<p>施策目標1 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進</p> <p>高齢化がますます進んでいく尾道市では、高齢者の福祉・医療の充実が必要である。一人暮らしの高齢者が多く見受けられ、介護保険制度を上手に使うって援助が充実している人もいれば、介護保険の情報を知らない人、利用できていない人がいる。もっと周知する方法を工夫して欲しい。年齢の枠を越えて集う場所や行事を計画してはどうか。</p>	<p>「施策目標1 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進」の【施策1 生涯にわたって学び続けるための環境づくり】、「(1)地域の課題や社会的な課題に関する学習の促進」において、社会的課題について学ぶ機会の提供や出前講座の魅力あるメニューづくりに努めることとしております。市長部局や関係機関と連携し、出前講座の内容の充実を図るとともに、様々な機会をとらえて、より幅広い年代に事業内容の周知ができるよう取り組む必要があります。また、公民館などでの自主事業として、多様な世代の人が集まる講座などでの周知にも努めます。</p>	31

20	学習「人生100年時代に、学び続け活躍できる人材の育成」	子どもたちの可能性を広げる施設の充実。 杉並区には児童青少年センターというものがあり、体育館、音楽スタジオ、クッキングスタジオなどを完備した施設で、毎日大勢の子どもたちで賑わっており、学校を越えた交流もそこで生まれていた。また子どもたちが主体となってスポーツ大会やライブなどを行っていた。このような施設を子どもたちに使ってもらうことで、未来への可能性が広がるのではないかと考えています。	本計画では、【施策1 生涯にわたって学び続けるための環境づくり】の「(3)社会教育施設(公民館・図書館等)の充実と活用」や【施策2 スポーツを楽しむ体力と健康を増進する環境づくり】の「(2)スポーツ施設の充実と活用」において、子どもたちを含めた市民の活動の場として既存施設の活用について記載しております。今後、市長部局とも連携し、子どもたちの居場所や学びの場について、確保や充実に努める必要があると考えています。まずは、公民館など既存の施設を生かし、子どもたちの育ちや交流につながるソフト面の充実に努めてまいります。	31,32	
21		自転車競技を習える環境の充実。 日本にはSHIMANOなど世界のトップの自転車パーツを制作するメーカーや数多くの世界的な自転車ビルダーがいるにもかかわらず、自転車競技に関しては習うところが少ないように感じる。尾道市にはしまなみ海道というすばらしいサイクリングロードがあるので、地域で自転車チームを作り、楽しさや交通ルールを学べ、世界を狙える選手の育成などを行ってはどうか。そのような地域は他にないと思うし、尾道市の特徴として街おこしにもつながるのではないかと。 自転車にも、ロードバイクやBMX、マウンテンバイクなど、様々な競技があり、坂や山もある尾道では様々な競技が可能ではないかと思う。	「施策目標1 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進」の【施策2 スポーツを楽しむ体力と健康を増進する環境づくり】、「(1)ライフステージに応じたスポーツ活動の推進」において、サイクリングの振興に加え、スポーツ・ツーリズムにつなげることで、新たな人的交流を生み出し、地域の活性化につなげていくこととしております。 本市は、ナショナルサイクルルートにも認定された優れた自転車ルートがあり、レンタサイクルなどで様々な自転車に親しむことのできる環境を持ち合わせています。地域に根差した自転車チームも存在しており、幅広い世代に情報発信ができるよう努めてまいります。	32	
22		施策目標2 家庭・地域の教育力の向上、学校との連携・協働の推進	「家庭教育支援のため、向東地区家庭教育支援チームの支援に努めるとともに、…」とあるが、教育総合推進計画の中に、特定の地区のチームを記載することが尾道市全体の施策とどう関わっていくのか。	家庭教育支援の具体的な取組の事例として、県内初の家庭教育支援チームとして本市で活動している「向東地区家庭教育支援チーム『親ぢから』」について記載しております。地域で家庭を支える家庭教育支援チームの活動は家庭の教育力の向上に波及する効果があるため、他地域での新規開設に向けた取組を進めるとともに、既設チームを支えていく必要があると考えております。 そうした主旨から、「既に実施している」を追加します。 なお、『用語解説』に「家庭教育支援チーム」を加えます。	34
23		施策2(1)(2)(3)について、これはP.20施策1(1)(2)、P.21(3)やP.26施策2(1)にも通ずるものであるが、地域の役割は大きいと思う。地域の方々は地域にある学校が大好きで、その思いが強い人が多いと思う。地域の方に学校に来てもらったり、児童生徒が地域に出て行ったりという取組は重要である。学校の思いと協力してくださる地域の方の思いとの差が大きい等の課題も多いので気を付ける必要があるが、理念・目的達成のための好ましい取組が、大きな負担なく自然とできる状況をつくっていききたいと思う。子どもたちと地域の方々が触れ合うことでお互い育つ部分も多くあると思う。基本理念の先には「一人一人が幸せな人生を送る。」があると思う。全面的に協力していききたい。	ご意見のとおり、子どもたちと地域の方々が触れ合う取組は重要であると考えております。多くの学校で、登下校に見守り等のボランティア活動やふるさと学習・昔遊びの指導等、地域の方による支援の取り組みが行われている一方、学校と地域の意識差等、課題もあると感じております。今後、コミュニティ・スクールの導入や地域学校協働本部の構築により、学校と地域が連携・協働した活動が行えるよう、関係機関とともに取り組んでまいります。	35	

24		「コミュニティ・スクールを組織する学校支援地域本部構築のためには、・・・」とあるが、学校支援地域本部とはどのようなものか。実施校を増やすとあるが、どの学校に構築されているのか。	「学校支援地域本部」は「地域学校協働本部」の前進であり、文言の誤りですので、「コミュニティ・スクールと連携する地域学校協働本部の構築」に文言修正します。 また、本市では「地域教育支援活動促進事業」を、13小学校と2中学校区で取り組んでおります。 なお、『用語解説』に「地域学校協働本部」を加えます。	35
25		コミュニティ・スクールにかかわる記述については、国・県の方向性と同じであり拡充には賛同する。ただ、記述については、理解できない部分や現状を踏まえた記述となっていない部分がある。例えば、「学校運営協議会委員に、学校教育支援、・・・地域人材を加える」の部分。記述の人材は協議会の下部組織である地域教育支援推進委員会から依頼を受ける人材であれば文章の流れから理解できるがどうか。	学校では「地域とともにある学校づくり」を目指して、学校の運営とそのために必要な支援について協議する学校運営協議会の設置が必要となります。一方、地域では「学校を核とした地域づくり」を目指して、幅広い地域住民が参画し、地域全体で子供たちの学びや成長を支えていく『地域学校協働活動』が必要となってきます。この2つの組織は、それぞれがもつ役割を十分に機能させ、一体的に推進することで相乗効果を発揮し、連携・協働した活動が一層進んでいくことが期待されております。 そうした主旨から、「地域人材が加わっていくことで、」に文言修正します。	35
26	施策目標3 歴史・文化・芸術の継承と創造	【美術館の活用】学校カリキュラムに美術館に出向いて学習する機会を作り、美術館、美術作品の学習機会を作る。実物を見て学習。 総合的には記載があるが、もっと具体的に書くべき。	市内小学校児童に鑑賞資料を配布し、大人と子どもと一緒に楽しめる鑑賞機会の提供を行っております。また、次世代を担う子どもたちを対象にした教育普及事業の推進としまして、当館を研修に利用される場合、対象の学年に応じた学芸員の解説も予定しており、ご相談いただくよう教職員方にご案内をしているところです。また、依頼がある場合には、出前授業や館内研修を実施しております。表現についても、「鑑賞機会の提供に取り組むとともに、出前授業などを実施し、」に修正します。	37
27		P.37にある施策2(1)(2)について、特に「国宝」は国の宝であり、保存・活用・継承は重要だと思うし、シビックプライドにもつながると思う。また、「市史の編さん・刊行」は楽しみにしている、児童生徒用の副読本版もできればいいと思った。	文化財の保存・活用については、これまでの取組を継続的に推進します。また、市史については、広報活動を工夫し、広く市民に周知を図り、シビックプライドの形成に有効活用していきます。なお、児童生徒用の副読本についても作成予定としております。	37
28		文化財振興行政にかかわる記述についてはコロナ禍で厳しい記述になっているが、おおむね評価できる。	歴史・文化・芸術の継承と創造については、これまでの取組を継続的に推進するとともに、ポストコロナ時代を見据え、さらなる充実に努めます。	37
29		尾道市内の文化財をもっと大事にして欲しい。観光財源としても有効に使えるものがたくさん埋もれていると思う。これまで、旧市庁舎や・別館、山波変電所など失われた文化財がある。日本遺産の街だからこそ古寺巡りやしまなみ海道の中だけでなく、巷にある文化財を掘り起こし、魅力を発信してほしい。また公会堂がなくなり、1,000人以上が集い、芸術・文化的行事を多くの人々が享受する場所がなくなった。現在の尾道市の集会場は狭く、駐車場もないので、多くの人々が集まることができない状況である。これからの100年後を見通して、施策を考えて欲しい。	これまで、地域にゆかりのある歴史・文化資源の収集・調査研究を行い、文化施設への展示等を行ってきました。また、後世へ文化財を継承するため、国や県と連携し、文化財の保存修理・防災事業等を計画的に実施するとともに、市民やまちづくりに取り組む団体等と連携しながら、未指定の文化財の活用と継承を促進しています。今後も、この取組を継続しつつ、日本遺産、文化財講座の取組やイベント等の普及活動を行い、シビックプライドや文化財愛護精神を醸成してまいります。 また、一定規模を有するホール等、多くの人々が集える施設に関しては、しまなみ交流館、ベル・カントホール、むかいしま文化ホールなどの文化施設や、新庁舎の多目的スペースなど各地域にある施設を有効活用することで、市民の芸術・文化的活動の機会を確保していきます。	37

30	その他	<p>「用語解説」に以下の用語を追加した方が良い。中には、P.13・37の「シビック・プライド(尾道愛)」やP.13・19の「スクール・プライド(学校への愛着や誇り)」のように()書きで済ませてよいと思われるものもある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AI/IoT、5G、DX(デジタルトランスフォーメーション)(P.6) ・統合型校務支援システム(P.10・27) ・地域学校協働本部(P.10) ・ソーシャルメディア(P.10) ・電子図書館(P.12) ・スマートスクール(P.17) ・GIGAスクール構想(P.17) ・ヤングケアラー(P.21) ・市民満足度調査(P.19・23・37) ・尾道作業検定(P.22) ・ゼロカーボンシティ(P.28) ・向東地区家庭教育支援チーム(P.34) 	<p>いただいたご意見を参考に修正します。</p>	
31	その他	<p>公園の増設。 以前、東京の練馬区、中野区、杉並区、世田谷区で暮らしていたが、いずれの地区でも徒歩で歩ける距離に大小さまざまな公園があり、自身も子どもの頃、友達とよく遊んでいた。僕が現在住んでいる地域では近くに公園がなく、いきいきサロン筒湯に滑り台が一つある程度。近所のお子さんをもつ親御さんたちに聞いても、「びんご運動公園」や「尾道東公園」に車で連れていっているとのこと。 気軽に外で遊ぶ場所がないため、子どもたちの交流の機会も減り、そこから得る学びも減ってしまうと感じるし、体力低下にもつながると思う。公園がきっかけでつながる親御さん同士の交流もなくなってしまう。 また、公園は高齢者もくつろげる場所にもなり、様々な人たちが交流し地域の活性化につながると考えています。 ちなみに、元筒湯小学校のグラウンドを公園にすることはできないのだろうか？</p>	<p>公園の整備については、本市の最上位計画である「尾道市総合計画」において、子どもの遊び場や高齢者の憩いの場、災害時における避難場所など、その役割が重要となっていることを踏まえ、市民の快適で安全・安心な住環境を維持するため、公園長寿命化計画等に基づき公園の適正な維持管理に努めることとしています。</p>	